

日常生活場面でのコミュニケーションと身体動作

関連するSDGsの国際目標



人間文化学部 人間関係学科 教授 高梨 克也
研究分野 : コミュニケーション科学, 身体動作学

概要：人々の日常生活の中での会話や身体動作をビデオに収録して微細に分析し、そこに現れた社会的な価値観や心理学的なメカニズムを炙り出していくことを専門にしています。手法はフィールドワークが中心で、実社会のさまざまな話し合いの現場や伝統的コミュニティの活動の場などに出かけて行って、リアルなコミュニケーションや自然な身体動作の実態を捉えることを心がけています。こうした観察からボトムアップに得られた知見をいかに現場での実践に再還元していくかということにも興味を持っています。

■立場の異なる者同士のコミュニケーションの分析と支援

SDGsに関わるさまざまな現代的課題は、特定分野や職種、地域、年齢などの立場・属性の人たちだけで解決できるものではありません。そのため、立場の異なる人々間の協働が必要になります。こうした協働の核となるのは「コミュニケーション」です。そこで、チーム医療や企業のプロジェクトチームなどに見られる「多職種連携」の中での話し合いや、科学コミュニケーションやコンサルテーションのような専門家と非専門家間のコミュニケーションを対象として、コミュニケーションの実態を詳細に分析していきます。そうした際には、記憶やイメージ、直感のみに頼るのではなく、これらの場面を実際にビデオデータとして収録し、繰り返し視聴しながら、発言の正確な内容やその時の参加者の視線の方向・しぐさなどを正確に特定していくことを通じて、人々の＜参加の仕方＞のパターンにどのようなフィールド固有の特徴や工夫、課題があるかを具体的に明らかにしていくことが重要です。さらに、各対象フィールドの関係者との協働により、こうした分析成果を現場の当事者にフィードバックしていくことも可能になります。



展示制作



病院カンファレンス
多職種連携



コンサルタント



サイエンスカフェ
専門家と非専門家

■日常生活環境における身体や道具の使い方のマイクロ分析

人々の協働において、コミュニケーションはその中核を担っています。しかし、もちろん、私たちの日常生活環境はコミュニケーションだけで成り立っているわけではありません。オフィスならばパソコンなどの情報機器や事務用品、家庭での食事場面ならば食卓や食器、さらにはテレビや新聞など、われわれは身体動作を介して、多くの物や道具と関わりながら活動を成り立たせています。こうした「物との関わり」も私たちの日常生活の快適さを左右する重要な一側面です。そこで、人々が日常的な生活環境の中で、それぞれの活動に必要な対象物をどのような動作方法によって扱っているかや、その使い方によってどのような工夫や課題が見られるかを、ビデオデータの微視的分析を通じて明らかにしていきます。こうした分析で得られた知見は人工物のデザインなどのさまざまな分野にも応用可能なものであると期待できます。



科学展示



伝統行事



遠隔医療



子育て

身体と物との関わり